

## 書評・新刊紹介

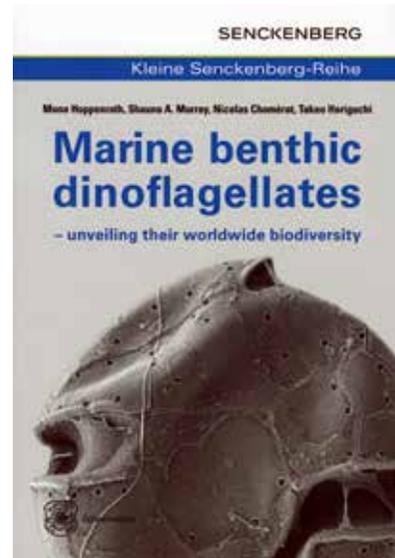
Mona Hoppenrath, Shauna A. Murray, Nicolas Chomérat, Takeo Horiguchi 著

### Marine benthic dinoflagellates - unveiling their worldwide biodiversity

赤潮の原因種をはじめとして渦鞭毛藻の多くはプランクトン性である。では、「底生性渦鞭毛藻」と聞いて、どのような姿を思い浮かべるだろうか？彼らの生息地は海底・砂浜・タイドプール、海藻やサンゴの表層と様々である。それぞれの環境に適応してきた底生性渦鞭毛藻はプランクトン性種と比較してその形態のみならず、生理的・生態的にもユニークなものが多い。シガテラ毒の原因として有名な *Gambierdiscus* は大きな円盤状の細胞をもち、海藻に着生したり付近を泳ぎ回ったりする。一方、砂地に住む渦鞭毛藻には柄やヘルメット状の細胞壁を作って基質に附着し、渦鞭毛藻らしからぬ形態で生活環の大半を泳がずに過ごすものがある。*Gambierdiscus* の他にも底生種には有毒なものが多く含まれることから、その種同定やモニタリングの必要性など各方面から注目を浴び始めている。そんな底生性渦鞭毛藻を体系的にまとめた初の書籍となる 'Marine benthic dinoflagellates - unveiling their worldwide biodiversity' が出版された。

本書は全7章により構成される。I章のイントロダクションでは底生性渦鞭毛藻を対象とした研究の歴史と本書の趣旨等が示され、II章の'材料と方法'では底生性渦鞭毛藻のために工夫を凝らした採集方法や実験のコツが写真入りで紹介されている。本書のメインとなるIII章では、底生性渦鞭毛藻45属約190種がカラー写真、電子顕微鏡画像 (SEM・TEM)、イラストレーションとともに記載されている。現在までに知られるほぼ全ての底生性渦鞭毛藻種をカバーする豊富な情報量でありながら、本書は明確な規則の下に整理されており非常に見やすい。例えば、本書では高次分類群は扱わず、各種は属名からアルファベット順に並べられている。渦鞭毛藻では特に科レベル以上の分類体系について見解が分かれる場合があるので、このシンプルな示し方がかえって目的の種を探しやすくしている。また、全ての種に対して原記載・シノニム・サイズ・鎧板配列・葉緑体・分布・参考文献等々の項目が与えられ、類似種との識別点や未解決の分類学の問題についても簡潔に言及されている。これにより、本書を引けば原記載から出版直前 (2013年) までの知りたい種に関する情報を容易に得ることができる。また、カラフルで美しい光学顕微鏡像 (200枚以上) や、迫力のある精緻な電子顕微鏡像 (約150枚)、注目すべき部分を効果的に示してくれるイラストレーション (250枚以上) がポイントを絞りながらもふんだんに使われており、底生性渦鞭毛藻のユニークな形態を純粋に楽しむことができる。

続くIV~VII章は底生性渦鞭毛藻の系統・地理的分布・生態・毒性について著者らの豊富な知識を基に最新の研究成



Kleine Senckenberg-Reihe, Band 54 (2014年)  
276頁, 図版93枚, サイズ: 15 x 21 cm  
価格 19.90 ユーロ  
ISBN 978-3-510-61402-8

果を取り入れながら分かりやすく解説されており、関連分野に興味のある方には非常に有用なガイドとなるであろう。

本書の大きな特徴は、もちろん底生性渦鞭毛藻をまとめた初めての本であるという点であるが、もう一つの大きな特徴は、本書がドイツ、オーストラリア、フランス、日本を拠点にした4人の底生性渦鞭毛藻の専門家によって執筆された点である。個々の研究者がコツコツと地域を巡って採集することによって研究されてきた底生性渦鞭毛藻であるが、著者ら国際チームによって実現した本書の視野は「unveiling their worldwide biodiversity」というタイトルに表されるように、全球規模に向けられている。特異な形態をもち系統関係も不明である種が多いため、もやもやと頭の中で全体像を整理しきれなかった「底生性渦鞭毛藻」というグループの姿が、本書を読み終わった後でよりすっきりと認識できるようになったと思う。A5版で厚さ2cm以下といった持ち歩きやすいコンパクトな本なのに、必要な情報が巧みに詰まっている (しかも本書の内容を考えると、この値段は安価である!)。本書は有毒渦鞭毛藻研究者のみならず、分類学者、生態学者など広い範囲の読者に有益な情報を提供し、今後の研究の発展の強力な拠り所となるだろう。このような重要な本が新たに出版され、手に取ることが出来たことに感謝したい。

(神戸大学自然科学系先端融合研究環 山口愛果)